※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ(文系)	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ｂ(数研出版)						
副教材等	新課程 チャート式《文》解法と演習 数学Ⅱ＋B 《理》基礎からの数学Ⅱ＋B（数研出版） 新課程 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ＋B（数研出版） 改訂版　共通テスト対策・短期完成　統計的な推測ノート						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく、自ら考え、主体的に学習をしてください。また中学までとは、扱う問題の量が格段に増え、内容もより高度になっていきます。授業の中で「分かった」と思っていても、それを家庭でしっかり復習、演習をしていかないと「自分で解ける」ようにはなりません。また、試験前に全てをまとめて復習することは極めて難しいです。日頃からもし分からない事や、質問などがあれば、放って置かず、必ずその日のうちに解決していくようにしましょう。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。また、長期休暇中にはたくさんの課題が出されます。先生の話を良く聞き、計画的にこなしていくようにしましょう。
・問題を解くときはまず自分で考えてみましょう。その際、途中式や考え方も書くようにしましょう。分からないときは答えを見てもかまいません。ただし、そこに書いてある解説をしっかり読み、理解できるまで熟読しましょう。
・問題は一度解けてもそれで安心せず、繰り返し解くようにしましょう。数学ができるようになるには、この反復練習が欠かせません。

２　学習の到達目標

①　数列，統計的な推測についての基礎的な知識や技能を習得することをめざす。
②　事象を数学的に考察する能力を培うことで、思考力・判断力・表現力を習得することを目指す。
③　主体的に学習に取り組み数学を活用する態度を身に付けることを目標とする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列・統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識・技能を身に付けている。	数列・統計的な推測における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，思考力・判断力・表現力を身に付けている。	数列・統計的な推測における事象に関心をもつとともに，それらを事象の考察に主体的に活用し、取り組む態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　数列	第1節 数列とその和	a：条件から等差数列の一般項を決定できる。等比数列の和に関する条件が与えられたとき，初項や公比が求められる。和の記号Σの意味を理解し，数列の和が求められる。数列の和を記号Σで表して，和の計算を簡単に行うことができる。 b：数の並び方からその規則性を推定して，数列の一般項を考察できる。等差・等比数列の和の公式を適切に利用して，和を求められる。 c：数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。自然数の２乗の和や３乗の和の公式を求めようとする意欲がある。階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。	定期考査 確認テスト	定期考査	ワークシート レポート 振り返りシート
		第2節 数学的帰納法	a：初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 b：初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。数学的帰納法を用いて，等式を証明できる。 c：おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を主体的に証明しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査	ワークシート レポート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

後期	第2章 統計的な推測	第1節 確率分布	a:確率分布を、計算式や分布表を用いて表すことが出来る。確率変数の確率分布が求められる。標準正規分布を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。 b:確率変数の期待値・分散・標準偏差が求められる。確率変数の変換ができる。正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。 c:二項分布に興味を持ち、さいころを投げるなどの具体的事象について考察しようとする。日常の身近な問題を統計的に処理するのに、正規分布を主体的に利用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査	ワークシート レポート 振り返りシート
		第2節 統計的な推測	a:母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められる。推定にかかわる用語・記号を適切に活用することが出来る。 b:信頼区間の考え方を用いて、母平均や母比率の推定ができる。	定期考査 確認テスト	定期考査	

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度